

岩村町の紹介

岩村は、恵那市内にあり、日本大正村に行く途中にあります。



岩村町は、八百年余年の歴史を持つ三万石の城下町として、今も城山に本丸をはじめとする石垣を残す日本百名城のひとつ岩村城跡をはじめ、重要伝統建造物群保存地区に選定された歴史の町並みや数多くの旧跡を有する、情緒あふれる史跡観光の街です。近くには、日本大正村、農村景観日本一と称される富田地区もあります。

今年に入ってNHK連続テレビ小説「半分 青い」のロケ地となり、岩村町本通りの西町商店街は、「ふくろう商店街」として多くの観光客が来ています。

早めに来て、商店街を散策していただくことで、昔懐かしい風情を楽しむことができますと思います。また、本町通りには、佐藤一斎の残した名言の木板が軒下に掲げられています。

会場の岩村山荘は、この本通りを上がり切り、岩村城跡入口左側にあります。

佐藤一斎の紹介



安永元(1772年)10月20日、岩村藩の家老佐藤信由の二男として、江戸浜町の下屋敷にて生まれる。34歳で朱子学の宗家林家の塾長となり、大学頭の林術斎と共に多くの門下生の指導に当たる。55歳の時に「重職心得過条」「御心得向存意」を著し藩政に尽力する。59歳の時、「言志録」を伊勢神宮へ奉納する。70歳の時、幕府の学問所「昌平黌」(しょうへいこう)の総長となり、88歳で亡くなる。

「佐藤一斎がいなかったら、日本の夜明けはなかったかもしれない。」と言われるほどの江戸時代後期の儒学者です。門下生には、佐久間象山、山田方谷、渡辺崋山など多くを輩出した。一斎の「言志四録」は幕末の西郷隆盛、勝海舟、坂本竜馬などに大きな影響を与えました。上記の一斎の銅像は、会場の岩村山荘前の資料館入口にあります。